

## 日本発ウィーン便り：暑い日の楽しみ

短い滞在だと、なかなか条件が揃う日は限られてしまいますが、ウィーンで青い空に太陽燦々の日には、やっぱり Eis（アイス：アイスクリーム）。



街の中でも、色んなところにお店があるし、移動販売のアイスクリーム屋さんも登場するし、どこで食べてもおいしいのですが、時間に余裕があれば、やっぱりここです。



恐らくウィーンで一番有名な Eissalon（アイスサローン：アイスクリームのお店）。TICHY（ティッヒー）



いつ行っても人だかりです。（これは平日の10：30くらい）

久々に行ったら、注文方法が変わっていて一瞬怯みましたが、難しいものではなく、

- ① まず、Becher（ベッヒャー：カップ）か Waffel（ヴァッフエル：コーン）かを選びます。コーンの場合、ものすごく盛り盛りで、暑い日は特に、四方八方から溶け出すので、手をべたべたにせず食べる

のが結構難しいです。初心者には、カップをお勧めしたいと思います。☺

- ② 大きさを選びます。一番小さなカップで2.5ユーロくらい。
- ③ 好きな味を選びます。アイスは15~20種類くらいです。一番小さなカップでも味は3種類まで選べます！大きなカップ（＝ファストフード店のドリンク S サイズくらいの大きさでしょうか。）だったら、もっと選べるのかもしれませんが。

この日は、近年ずーっとお気に入りの Haselnuss（ハーゼルヌス：ヘーゼルナッツ）に加え Schokolade（ショコラーデ：チョコレート）+Waldbeere（ヴァルトベレー：野生のベリー）の3種類にしました。味は濃厚なのに、結構軽くて、いつ食べても本当に美味しいです。お店は、地下鉄の終点駅のちょうど上に位置します。お店の前が公園になっていて、ベンチがたくさんあるので、そこで食べている人が多いです。もちろんお店の中のカフェでは、日本で言うところのパフェも食べることができますよ。（70種類くらいあるようです。）



ベンチに座ってアイスを食べつつ、お店を観察していたのですが、写真に写っている人みたいに、ちょっと自転車でアイス食べに来る人、散歩途中の老夫婦、買い物途中のお母さん、ちびっこの団体、それこそ老若男女問わず、ひっきりなしにお客さんがやってきては、公園で日光浴しながら、アイスを食べてるって感じです。

ももとはちょうど60年前の1952年、Tichyさんが始めたお店で、（確か今で3代目）以前は、毎年アイスのオフシーズン＝冬の間、Tichyさん一家が休暇に出かけてしまって、数か月間お店が休みになるので、休みに入る前は、それ

こそウィーン中の人々が大きなバケツ（？）持参でお店に押し寄せる。というのが、季節の風物詩だったとか。まあ多少の誇張はあると思いますが、そんな伝説のEissalonです。やっぱり今でも9月のシーズン終わり近くになると、大箱買いする人が多いそうです。想像するだけで、面白いですね。（ちなみに、ホームページによれば、今年、2012年のEissaison（アイスセゾン：アイスのシーズン）は3月16日から9月末日だそうです）☺



他のお店で見かけた「アイス5月1日から！」の告知チラシ。そう。ウィーンでは、アイスクリームは、季節の食べ物なんですよ。（日本の「冷麺始めました」に近いものがありますね）

Eissaisonにウィーンに行くことがあれば、是非この伝説のEissalonへ！